

策定の趣旨

・「ひろしま川づくり実施計画2016(仮称)」は、県の総合計画である「ひろしま未来チャレンジビジョン」が目指す県土の将来像を実現するための社会資本マネジメントの基本方針として策定している「社会資本未来プラン」の河川部門の事業別整備計画として策定
 ・「ひろしま川づくり実施計画2011」が平成27年度で終了することから、これまでの取組の成果や、新たな課題を踏まえ、上位計画である「社会資本未来プラン」と整合を図りながら、次期計画を策定

計画の概要

① 計画期間：平成28年度～平成32年度(5年間) ② 投資予定額：概ね360億円

現行計画策定後の状況変化

- ◆ 東北地方太平洋沖地震を契機に南海トラフによる地震や津波への懸念が増大
- ◆ 8.20広島市土砂災害等を契機に、県民への情報伝達の重要性を再認識
- ◆ 河道内の堆積土や樹木への県民不安の高まり
- ◆ 浸水想定区域の想定降雨が最大規模降雨に拡充
- ◆ 関東・東北豪雨災害により、築堤区間防護の重要性を再認識

新たな課題

- ◆ 南海トラフ巨大地震による地盤の液状化や津波への懸念が増大し、その対策が求められている
- ◆ 施設の能力を上回る洪水に対し、ソフト対策を用いた防災・減災対策の向上が求められている
- ◆ 河川内の堆積土や樹木について計画的な対応が求められている

現行計画の進捗状況と評価

- ◆ 客観的な事業評価により、優先順位が高い箇所から、計画的な整備を進めた結果、成果目標を達成する見込み

新計画の見直しの方向性

■ 現行プランの5本の施策の柱を継続しつつ、新たな課題を踏まえ、基本方針の再整理・充実を実施



河川事業が目指す 県土の将来像

防災・減災
災害による被害を最小限にするための県土づくりが進んでいます。

既存インフラの機能保全
これまで整備してきた公共土木施設が適切に維持管理されています。

環境保全
再生可能エネルギーが利用され、環境への負荷の少ない持続可能な社会の仕組みの構築が進んでいるとともに、自然環境の保全が進んでいます。

計画の基本方針

■ 課題克服のため、次の5つのチャレンジを施策の柱として掲げ、取り組みます。

チャレンジⅠ 災害の防止・軽減対策の充実・強化

- (1) 事業箇所別の優先度の明確化と創意工夫による早期効果発現
- (2) 河口部の地震・高潮対策事業の重点化

チャレンジⅡ 自助、共助、公助による地域防災力の向上

- (1) ソフト対策による災害対応力と地域防災力の向上
- (2) 防災情報の普及促進や出前講座の実施
- (3) 洪水浸水想定区域の見直し
- (4) 堤防の浸透・浸食に係る監視強化

チャレンジⅢ 既存施設の適確な運用・管理による安心・安全の継続

- (1) 既存施設の適確な運用・管理
- (2) 堆積土等の定期的な調査、管理基準の設定、別途5か年の除去に関する計画の策定
- (3) ダムの放流エネルギーを利用した小水力発電によるダム管理機能の向上

チャレンジⅣ 河川環境の保全と川らしさ復元

- (1) 水辺の魅力復元と多自然川づくり

チャレンジⅤ 水辺空間を活用した賑わいづくり

- (1) 水辺空間の利活用の促進

【参考】現行計画の成果目標と達成状況

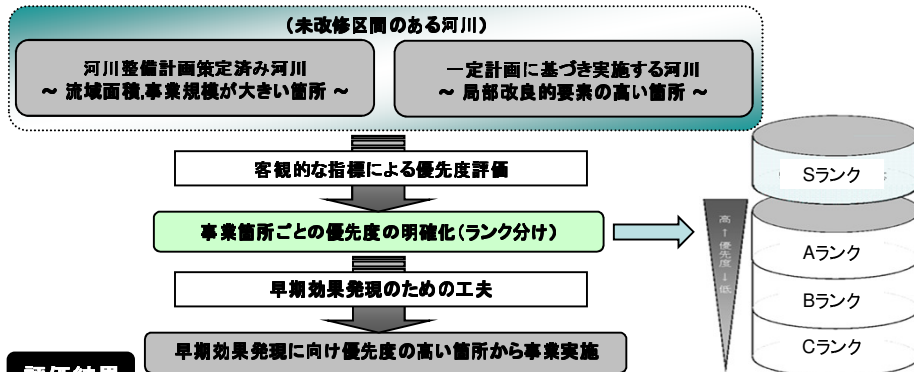
	現状値 H23当初	目標値 H27年度末	実績値 H27年度末 (見込み)
洪水高潮防護 達成人口率	52.5%	60.3%	60.3%

チャレンジⅠ 災害の防止・軽減対策の充実・強化

事業箇所別の優先度の明確化と創意工夫による早期効果発現

河川改修事業、高潮対策事業の実施箇所の選定にあたっては、客観的な評価により事業箇所ごとの優先度を明確にした上で、優先度の高い箇所から整備を図り、「優先して整備する一定区間の設定」、「段階的施工の検討」、「河道浚深による改修工事の補完(既存ストックの有効利用)」等の工夫を行うことで「事業効果の早期発現」を目指す。

事業箇所の優先度選定フロー



評価結果

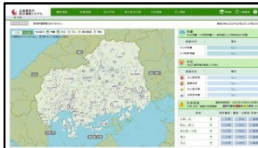
区分	完成	部分完成	継続	合計
Aランク	4箇所	6箇所	16箇所	26箇所
Bランク	5箇所	4箇所	27箇所	36箇所
合計	9箇所	10箇所	43箇所	62箇所

チャレンジⅡ 自助、共助、公助による地域防災力の向上

防災情報の普及促進、洪水浸水想定区域の見直し、堤防の監視強化

ソフト対策として、広島県河川防災情報システムを通じて市町の水防活動や住民の警戒避難などに役立つ防災情報を提供するなど、避難体制等の充実・強化を図る。
また「広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動」に合わせ、防災出前講座に積極的取り組む。

河川防災情報システム画面



防災出前講座



「想定し得る最大規模の降雨」に対する洪水浸水想定区域図を作成し、公表する。
また、浸透・浸食に対する監視が必要な区間を重点監視区間として定め、これを出水時に監視し、変状等が発見された場合には、市町へ情報提供し、避難勧告等の発令に役立てる。



矢部川(福岡県)堤防決壊

チャレンジⅢ 既存施設の適確な運用・管理による安心・安全の継続

既存施設の適確な運用・管理、堆積土等の管理基準の設定及び除去計画の策定

河川の機能を維持し、浸水被害を防止するためには、堤防・護岸や排水機場、ダムなどの河川管理施設を適切に管理することが重要であり、運轉・点検や維持・修繕等を計画的に行って各施設の機能を維持する。

河川の流下能力を適切に管理するため、管理基準を設けて堆積土等の管理水準を明確化するとともに「河川内の堆積土等除去計画」を策定し、計画的に堆積土等の除去を行う。

排水機施設(新安川)



堆積土砂撤去前



堆積土砂撤去後



チャレンジⅣ 河川環境の保全と川らしさの復元

水辺の魅力復元と多自然川づくり

海に近い河川では、有機物が河床に堆積しやすく、生物生息環境や水辺景観が悪化しているため、河川底質の改善に取り組む。

京橋川底質改善



チャレンジⅤ 水辺空間を利活用した賑わいづくり

水辺空間の利活用の促進

既存の階段護岸やダム、河畔緑地等の多目的利用を促進し、水辺の魅力を活かした観光資源や集客の場の創出など、新たな賑わいづくりを支援する。



京橋川水辺のオープンカフェ

「美しい川づくり」将来ビジョンに基づき、広島駅周辺地区の水辺を「水の都」の玄関口にふさわしい、広島象徴的な空間とするため、広島市と連携して取り組む。



猿猴橋周辺整備イメージ

◆成果目標◆

◆防災・減災対策の充実・強化

指標	現況値 《H28年度当初》	目標値 《H32年度末》
洪水高潮防護達成人口率	60.3%	63.0%
堤防耐震化防護達成人口率【新規】	40.6%	42.7%

◆自助・共助・公助による地域防災力の向上

指標	現況値 《H28年度当初》	目標値 《H32年度末》
想定最大規模降雨に対する洪水浸水想定区域図の策定率【新規】	0%	65.7%
「河川出前講座」等の実施数【新規】	—	45回